

CARGUY SCR Rd.4 Race Report

CARGUY SUPER CAR RACE SERIESは、第2大会の2日目、10月7日（日）に富士スピードウェイで、第4戦決勝レースを行った。まさに台風一過の爽やかなコンディションの中、5シーズン目のラストを飾るに相応しいバトルが繰り広げられ、新たなチャンピオンに近藤保が輝くこととなった。

【決勝】

第2レースのスターティンググリッドは、第1レースのベストラップ順に決められるため、ポールポジションからスタートするのは、ファステストラップを記録した、佐藤元春と平中克幸の恒志堂レーシングSLS GT3で、2番手にはサーリ・ヨルチュとチャーリー・イーストウッドのSALIH&CHARLIE HURACANが。そして、チャンピオンに最も近い位置にいる近藤保が、山崎裕介とともに駆るSAccess HURACAN GT3が3番手からのスタートとなり、唯一逆転の、そして連覇の可能性を残す木村武史のCARGUY RUF 488CHが、その脇に並ぶこととなった。

「昨日の走りがあまりに不甲斐なかったので、今日は納得の走りができれば。そうでないと、タイトルも何の意味がないですからね」と、スタート前の近藤。その言葉から、王座獲得を強く意識していたのは明らかだった。

なお、ピットストップ時間と車両タイムハンデは、第1レースの結果に基づき、1位から3位にそれぞれ15秒、10秒、5秒が加算されるため、恒志堂レーシングSLS GT3はリタイアとあって68秒のままながら、優勝のSALIH&CHARLIE HURACANは83秒に、2位のSAccess HURACAN GT3は87秒、3位のCARGUY RUF 488CHは50秒に改められた。この加算が、どうレースに影響を及ぼすかも注目された。



早朝に降った雨で路面には一部ウェットパッチを残したものの、ライン上は完全にドライコンディション。第4戦決勝レースは40分間で争われるため、ピットストップの義務づけは、スタートから15分から25分の間に行われることとなる。

今回もポールポジションの恒志堂レーシングSLS GT3は、佐藤がスタートを担当。脇に並んだSALIH&CHARLIE HURACANもヨルチュだったため、激しい攻防がスタート直後から繰り広げられると思われた。しかし、今回は佐藤が冷静に対処し、1コーナーでの逆転を許さず。そして、その直後の2コーナーで衝撃的な光景が！ 3番手スタートでSAccess HURACAN GT3を駆る近藤が単独スピン。マシンにダメージを負うことはなかったものの、これで最後尾へと後退する。

RUF

PIRELLI

CARGUY
SUPER CAR RACE

Motyl's
SUPER LUBRICANT TECHNOLOGY

一方、トップの佐藤はオープニングラップの逆転を許さなかったばかりか、3周目までしっかりヨルチュを封じ込めた。そればかりか大きな遅れをとることなく食らいつき、さらに3番手を行くCARGUY RUF 488CHの木村を引き離していた。

一方、SAccess HURACAN GT3の近藤は、4周目には5番手まで浮上。だが、M2 CORSE HURACAN GT3の松下正人を、なかなか抜けずにいた。同じウラカンGT3であるだけに、絶対的なパフォーマンスの差がないためだ。だが、近藤の鬼気迫る走りにプレッシャーを感じたのか、10周目の100Rで松下が痛恨のスピン。これでようやく、近藤は4番手に躍り出ることとなった。

そして、近藤のポジションアップとほぼタイミングを同じくして、スタートから15分を経過し、ピットロードオープンとなる。まずは10周目に3番手の木村がピットイン。今回もタイヤを4本交換するが、メカニックにミスはなく最小限のロスでコースに復帰。続いて11周目には恒志堂レーシングSLS GT3が。トップから10秒と遅れることなく、佐藤は平中へシートを託したことから、あとはSALIH&CHARLIE HURACANの動向次第となる。そのヨルチュからイーストウッドへの交代は、ほぼギリギリの13周目。全車がピットストップを済ましてコースに戻ってみると……。

トップはCARGUY RUF 488CHの木村で、6秒遅れてSALIH&CHARLIE HURACANのイーストウッドが続き、さらにコンマ5秒差の3番手で恒志堂レーシングSLS GT3の平中が。15周目のヘアピンでイーストウッドをかわした平中は、続いて木村にも迫って、17周目のコココーラコーナーでトップにも躍り出た。



一方、13周目に近藤から山崎に代わっていたSAccess HURACAN GT3は、ピットストップの間にいったんは5番手に退くも、16周目には再びポジションアップ。平中がトップに立っていたこともあり、そのポジションをキープすれば近藤の初戴冠が決定する。ただ、この頃マシンには軽いトラブルが生じており、実際には爆弾を抱えた状態だったとも。

しかし、その後の順位変動はなく、恒志堂レーシングSLS GT3は逃げ切って優勝を飾り、何とか4位をキープしたSAccess HURACAN GT3の近藤がチャンピオンを獲得する。2位は連勝ならずSALIH&CHARLIE HURACANで、3位はCARGUY RUF 488CHが獲得。

「今日の勝因は、何と言っても佐藤さんが前半、全然離されなかったもので、それで僕も離されずにピットアウトできたから。あとはもう、あれぐらいのペースなら問題なく追いつけられたし、本当に佐藤さんのおかげです」と平中。そして、佐藤は「昨日のギャボックスのトラブルから立ち直って、若干アンダーステアが強かったんですが、焦らずに状況を見ながら走れたのが久々の優勝につながったんだと思います。スタートからとりあえず頑張っただけで少しも抑えられたらと思って。うまくバトン



タッチできて良かったです。今後とも機会があればチャレンジしていきたいと思いますので、よろしくお願いします」と笑顔で語っていた。

そして悲願のチャンピオンに輝いた近藤は「ありがとうございます、みんなのおかげです！ 僕は下手くそだ（笑）。1周目のスピンでドベになったでしょ、あれで全部吹っ切れて自分らしい走りができて『あれ、こんなに速かったっけ、俺？』って。ライバルといいバトルもできたので、表彰台には立てなかったけど、すごく気持ちがいいレースができました。最後はマシントラブルを抱えながらも、山崎さんが頑張ってくれたので『まじ？ チャンピオン』って感じです。レースを始めてから3年目ですが、もう53歳なので、もう人生終わっちゃうから（笑） これからも頑張れる限り、頑張ります」と満足そうな表情で語っていた。

一方、惜しくも連覇は果たせなかった木村だが、こちらも満足そう。というのは「何気に私のレースラップって、実は今年フェアリーチャレンジの、ポールポジションよりも速いんです。特に昨日が（1分）43秒2で、今日も43秒4ぐらい出ていたのかな？ 向こうはガソリン半分で43秒9だったのに、こっちは満タンだし。それを考えれば頑張ったのかなって」と木村。ベストを尽くしたからこそその表情なのだろう。

そして、IIIクラスで孤軍奮闘のBRP★Audi RS3 LMSの須田力と奥村浩一は、しっかりと完走を果たすことに成功。今回は奥村がスタートを担当し、チェッカーは須田が受けていた。チャンピオンを獲得した須田は、「練習には最適で、楽しいレースでした。それでいて奥が深く、ただ走らせるだけなら誰でもできますが、課題としていたコンマ2秒ずつ削るのがめっちゃ難しかったんですが、すごく面白かったです！ 今後はまあ、スポットでS耐の可能性があり得るかなという感じで、そんなにレースをガッツリやるつもりはないんですが、あくまでもジェントルにエンジョイして、この楽しさをみんなに伝えたいという役割で頑張っていきます」と、これまた晴れやかな表情で語ってくれた。

これで5シーズン目のすべての日程を終えた、CARGUY SUPER CAR RACE。来シーズンも激しいバトルとさまざまなドラマ、そして晴れやかな笑顔が満ち溢れることを期待したい。



RUF

PIRELLI

CAR GUY
SUPER CAR RACE

Motyl's
HYPER LUBRICANT TECHNOLOGY